

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

こすもすの家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

地域の中で代表者の母と本人が医療を営んで住民に貢献してきた実績を基盤にして、再び福祉介護を主体に経営する有限会社を平成14年に設立、平成15年にグループホームとデイサービスセンター、介護支援センターを次々と開設した。代表者自身が実母のアルツハイマー病患者として苦しんだ体験と自身看護師としての患者に対する考え方から、福祉介護の業界に身を投じたことは、母の為に地域の高齢者にも大きな信頼を得るものになっているだろう。平成18年には、グループホームの2軒目が始動した。

このホームのモットーは、利用者のできることはしてもらう。できないところだけ手伝ってあげる。こんなことしたい、こんなところに行きたい、こんな物食べたい等、利用者の希望はできるだけすぐ叶えてあげたい。最後までこのホームに居たいと本人や家族が望むなら看取りまでしてあげたいということである。そして利用者や家族から信頼されること、職員間で信頼関係をつくることである。

利用者の一番の楽しみは、「食べること」である。このホームは三度々々の食事を大切に、旬のものを食べてもらい季節感も味わって欲しい。地の物、新鮮な食材を使う事を重視している。訪問した昼食は、うどん定食だったが、各人にアルコール燃料を使ってうどんを煮ているのには驚いた。食堂で定食を食べているみたいな雰囲気です。食事を楽しまれていた。「うどんのお変わりどう?」と問うていたが、食制限の人も居て難しいところである。

「今日は近所でお雛さま祭りがあるんで、皆で見にいこうと考えているんですけど」と代表者の誘いで、お雛さま見物に利用者と一緒に連れて行って驚いた。近所のお寺が集めたお雛さんや泥人形の規模と質に唯見入るばかり。利用者もお雛さまに囲まれた座敷に座って感嘆するばかりだった。このホームは、自身での行う行事に家族や地域の人を招いたり、地域の行事に参加したり、他のグループホームの行事にも招かれ、利用者と一緒に出掛けることが多い。ドライブや買物、自宅訪問等外出し、利用者本人が納得するように支援もよくしている。

このホームは隣接するデイサービスにも出掛けて、リハビリしたり、デイの人達との交流もしている。隣のホームにも出入りしているのも、ここでの生活は楽しい。

ホームを設立して5年足らずの年月を経過した。社長の息子夫婦もデイサービスの責任者と従事しており、職員の育成にも力を入れている。職員はこの地域の人が多く、立上げ時から安定している。職員には「やさしさ(人間性)」を求めており、利用者の目線に立ってケアをする人材が育っている。若い男性職員が次期管理者と紹介してくれた。

特に改善の余地があると思われる点

代表者や関係者が、この事業体を築いて5年目を迎え、利用者も安心してこのホームで暮らせるようになった。職員も不安定な時もあったが、次々に育っていき、人材の幅もできていくであろう。介護福祉の今までの慣例にとらわれず、新しい風を吹き込んで、楽しく生活できるホームを築いて欲しい。期待している。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念は、人間の本来の姿をホームでも続けていくことを目指しているため、これ以上のことは考える必要もないので、この考えを一人ひとりの利用者に叶えさせてあげて続けていってもらいたい。唯、もう少し地域の皆さんに集会等でグループホームについて知ってもらえるよう努力していきたいとの思いを聞き、是非実行していただきたい。</p> <p>2、全体的に見て…：「その人らしく生きる」が理念であり、人らしく生きることはわがままが言える環境の中で生きていけることを意味すると思う。一人ひとりの気持ちや希望を叶えてあげたい。何を食べたい、何処に行きたい、何を作りたい等それぞれの人が意向を素直に言えて、それを出来る限り実現してあげることが、精神面の落ち着き、安心感を抱いてもらえる源である。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：最初に出来たホームであり、民芸調な雰囲気とする室内の雰囲気がある。リビングルームは食堂ゾーンとソファ等があるリビングゾーンがある。ここに利用者の個人的に好きな居場所を作ってあげたいという管理者の気持ちがある。リビングルームはハード的な面も大切であるが、それ以上にそこで暮らす人（利用者や職員）の表情と行動、言動等の活力や雰囲気家族らしさを形成するものだと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：できる能力のある人には、利用者でホームを掃除してもらうのが日課になっている。ほうきやモップを使ってホームをきれいに清潔にもらうことは、ホームで生きていく価値を感じてもらえるだろう。外の通路（ベランダ）もベンチやパラソルもあり、休憩にも良い環境である。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネージメントについては、ケアの重要性についてよく認識しており、介護計画や記録、ケアの基本事項の実践、個別の生活支援、健康管理、家族との交流等一つひとつの項目の重要性を改良していくよう日々努力しているので、現在改めて改善していかなければならないことはない。</p> <p>2、全体的に見て…：理念にもあるように、その人らしく生きるための支援をしていくことが、利用者にとってすべてであろう。そしてそれぞれの人のできる事を尊び、自立していけるように努め、できないところだけ手伝う。又、出来るだけ、利用者の希望や意向を出してもらえる環境づくりをしている。そして、それを聞いたら、すぐに実行してあげるから、また希望も出る。気持ちが実現した喜びをいつも感じてもらえることが、その人らしい生活になるので、素晴らしい環境であると思う。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営体制は、職員・家族・地域に対し、特に改善しなければならない点はない。社長や関係者の結束した方針や思いによって運営が続けられているが、何といても利用者が安心してこのホームで生活していける土台作りは、職員たちが支えてくれた日々の業務の積み重ねと職員自身の人間としての資質の向上によって成し遂げられるものである。その努力は積み重ねていってもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：在宅介護支援とグループホームの運営を独自に営んでいる事業体であり、他に核となる事業はない。社長の個人的経営が成り立っているもので、業界内や利用者、家族、地域内での信頼関係のみが唯一の財産だろうと想像する。職員全員共有できる信念の元、職員全体での基盤を大切にしていってもらいたい。</p>		